



地域を面白くすることが  
自分の生活を面白くする

# 特集 対談 地域おこし協力隊

## 板垣 泰之 × 岩隈 大樹

いたがき・やすゆき

いわくま・たいじゅ

金ケ崎町ならではの魅力に  
多くの人が気付けるように



### Profile

宮城県仙台市出身。奈良大学文学部文化財学科卒業。博物館で働く夢を幼稚園の卒園文集にも書く。前職で発掘の仕事をしていたが、文化財の活用には町の人たちの理解が欠かせないと思い、平成26年9月から地域おこし協力隊として着任した。30歳

### Profile

埼玉県加須市出身。立教大学社会学部現代文化学科卒業。地域・環境・防災関係のシンクタンクに就職したが、より歴史と向き合うため仕事を辞めて学芸員の資格を取得。平成26年5月から地域おこし協力隊として着任した。29歳。

今年3月で地域おこし協力隊の任期を終える岩隈大樹さんと板垣泰之さん。  
2人は金ケ崎町で約3年間にわたり、文化財を活用した地域おこし活動を行ってきました。  
活動を通して、2人が感じたこととは—

### 初の地域おこし協力隊 金ケ崎町に2人が着任

——地域おこし協力隊を志望した理由を教えてください。

**岩隈** 子どものころから歴史が好きで、全国の古墳や寺社、町並みなどを巡っていました。その中で、各地で破壊されたり放置されたりしている文化遺産を目にして、強いショックを受けたのを覚えています。それから歴史文化を未来につなげることに貢献したいと考えようになりましたね。

大学卒業後は地域・環境・防災関係のシンクタンクに就職しましたが、より歴史と向き合うため仕事を辞めて学芸員の資格を取得しました。

その後、学芸員関係の求人を探す中で金ケ崎町地域おこし協力隊の募集案内を見つけたので応募しました。

**板垣** 私も昔から文化遺産が好きで、博物館で働くことを幼稚園の卒園文集にも夢として書いていました。

大学で文化財の保存について学ぶ中で、文化財を守れるのは人の手しかないということを感じました。そこに住む人が文化財をどのようにとらえているかが大事です

かったですね。

### 3年間の活動を振り返り 活躍の場の広がりを実感

——どのような思いで活動をしていましたか？

**岩隈** 歴史の持つ「つまらない」「自分たちには関係ない」という印象を変えること。金ケ崎ならではの魅力に一人でも多くの人が気付けるようなきっかけづくりに貢献したいと思いました。

**板垣** それってあまり難しいものではないと思います。今の金ケ崎町があり、人々が生活しているのは、歴史が現代まで繋がっているから。それを感じてもらいたいと思いました。

——どのような思いで活動を続けてきましたか？

**岩隈** 1年目は、自分たちが金ケ崎のことを知るため、地域資源の現地調査とリストの作成を行いました。その際地域の方に道や由緒を教えていただいたことよって、文献だけでは得られない深い情報を得ることができましたね。10月からは広報のコラムで、町民にあまり知られていない文化遺産の魅力を発信する機会をもらいました。

し、文化財を活用するためにも町の人たちの理解が欠かせないと思います。協力隊に応募しました。

金ケ崎町は重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建群）もありますし、そこを盛り上げる活動ができればと思いますね。

——金ケ崎町に着任してみて町の様子などはいかがでしたか？

**岩隈** 思った以上に便利な地域だなというのが第一印象です。全国の中山間地域などにも行っていたので、それらと比べいろいろな点で恵まれていると感じました。

文化遺産では鳥海柵跡と伝建群が注目される反面、管理者がいなくなつて朽ち果てていく神社や地域内でも忘れ去られていく伝承が多くあり、それらについてほとんどの人が気付かないでしまう環境も気がかりでした。

**板垣** そうですね。町内の史跡は幅広く、生かしながらある印象です。旧石器時代から明治、昭和まで幅広くあるんですよ。でも、なかなか文化遺産に興味を持ってもらうことは難しそうな印象でした。

着任当初は地区のお祭りなどに誘っていただいたことで、いろいろな方と知り合いになれたことが大きかったです。とてもありがた

取材できさまざまな話を聞き、金ケ崎という土地の奥深さを再確認できました。

**板垣** 2年目の4月からは奥州工フエムに木曜日ゲストとして出演することになり、活躍の場の広がりを実感することができました。ラジオは結局、2年間で計104回出演し、金ケ崎町の歴史などをしゃべらせてもらいました。

また、この頃から覆面住人千貫石太郎の活動も本格的に始動することとなります。強いインパクトで協力隊の活動PRに大きく貢献したと考えています。特に子どもたちには効果絶大でしたね。

残念ながら協力隊の2人だけでは、子どもたちがこれほどまでに楽しそうに歴史を学ぶこともなかったらと思うています。

他にも、鳥海柵跡での平安流お花見会を皮切りに遺跡を活用した自主企画事業の開始、地域交流拠点大松沢酒店の整備とオープン、PROJECT MANZUの始動、子どもたちを対象とした歴史探検隊企画の実施など目まぐるしく動



覆面住人  
千貫石太郎